

# 研究所だより

第355号  
2015年11月27日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“秋の夕日に照る山もみじ 濃いも薄いも数ある中に  
松をいろどる楓や鳶は 山のふもとの裾模様”  
唱歌「紅葉(もみじ)」

～過ぎゆく秋～

暦の上では小雪（寒さもまだ厳しくはなく、雪もまだ多くないという意味）を過ぎました。各地で冷え込みが強まり、幡多路でも一条大祭後、急に冷え込んできました。北海道では広く雪となり、札幌市では62年ぶりに市内での積雪量が40cmを超える大雪を記録しました。季節の変わり目、体調管理、特にインフルエンザには十分留意しましょう。

## ＜土佐清水市教育研究集会・半日教研特集＞

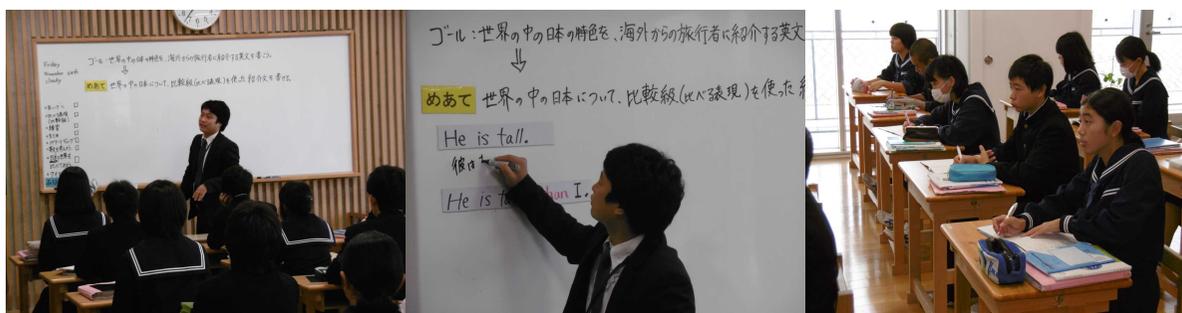
半日教研は、各教科部会研究授業を主体に開催されます。それぞれの部会で授業や日々の実践等について活発な意見や情報交換ができたものと思われま。下記に外国語部会の授業と各地区からの感想・意見等について記載します。

### 【外国語部会】

外国語部会では、小・中学校で研究授業が行われました。各校とも教育目標や研究テーマ、授業のねらいを達成するための授業構成となっており、個人、グループで活発な学習活動が見られました。特に2校とも授業スタンダードが確立されており、ねらい通りの授業展開となっていました。

〔清水中学校：11月6日（水）2年生 浦田国宏先生〕

単元：「Sunshine English Course 2 PROGRAM 9 A Priest in a Mask」

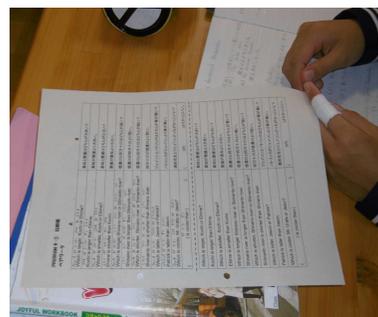


(ホワイトボードに書かれた授業の流れとめあて)

(真剣な眼差し)



(楽しくペア活動)



(ワークシート)

清水中学校は、「ことばの力育成事業プログラム推進事業」の指定を受け、図書館や図書資料の活用、県教委作成各種学習シートの効果的活用、NIEの研究を進めています。今回の授業でも資料を活用して、インタラクティブ(注)で生徒の発話量の多い授業スタイル、単元ゴールのある授業計画、生徒が互いに高め合えるペア・グループ活動等を取り入れた授業を見せていただきました。

(注)：「対話的、相互方向的」

〔清水小学校：11月18日（水）5年生 濱口亜弥先生〕

単元：「クイズ大会をしよう！」(Hi, friends 1 Lesson 7)



(黒板に書かれた授業の流れとめあて) (導入・シャツ)

ブラックボックス “What's this?”



(ピクチャークイズ)



振り返り (本時の感想等)

授業者が、常に笑顔でクラスルームイングリッシュを使い、楽しく授業を進めていました。また、児童が興味を持つような教具を介して、児童にも外国語活動を中心に自分を表現できる機会を多く設定していることで、児童同士が楽しくコミュニケーションできていました。本時のねらいの通り「ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ」授業でした。いかなる授業も緻密な教材研究、ねらい(ゴール)が明確な授業計画、用意周到な準備物等がキーポイントですね。

## ＜研究協力校研究授業＞

〔下ノ加江小学校：11月9日（月）5年生 藤原初美先生〕

題材：「南海トラフに備えよう」

(学級活動 2 カ「心身ともに健康で安全な生活態度の育成」)

下ノ加江小学校では「平成27年度高知県実践的防災教育推進事業」の指定を受け、南海トラフ地震に備えた防災教育の充実を図るため、関係機関と連携しながら非難訓練の実施、防災教育に関する指導方法等の開発・普及等に取り組んでいます。また、この事業の一環として今年度も大木聖子先生(慶應義塾大学環境情報学部准教授)をお迎えして公開授業や防災講演会を行っていただいております。

今回は研究テーマである「自ら判断し主体的に行動できる児童の育成」に基づき、南海トラフ地震について知り、自分の家族や命を守るためにどのようなことをしておくべきかを考える授業を公開していただきました。授業は、下ノ加江小学校の授業スタンダードを基に、学習リーダーを中心に主体的に取り組めていました。

講演では、大木先生やご主人の宍倉正展先生(産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター海溝型地震履歴研究チーム長)に「必ずくる巨大地震から命を守る

ために」と題して話をしていただきました。

地震は毎日発生している。(1日300回、5分に1回発生)。また、地震の歴史や地震の予測三要素(いつ・どこで・どれくらい)についても話していただいた。大事なことは、備えているかどうかです。昭和南海地震は、他の時代の南海地震と比較して規模が小さかったが安心してはいけません。常に大地震を想定して日々訓練することが大事である。日頃から家財道具等は、固定しておく。子どもの見ている前で、家具は押さえる物ではなく、止める物であることを教える。地震の時は絶対に体で支えないこと。「自分の命は自分で守る」ために、「自分も逃げるからあなたも逃げなさい。」など明日からの実践に役立つたくさんのお話がありました。



(年表でわかったことは?) (学習リーダーを中心に)

(大木先生の講話)

## ～半日教研振り返り～

### 1. 日程について

〔西部(下川口・三崎)、半島(足摺岬・中浜)、東部(幡陽・下ノ加江)地区〕

- ・問題なかった。
- ・良かった。

〔中央Ⅰ(清水小)地区〕

- ・前日が休みだったので、公開授業の準備が大変だったと思われる。
- ・動員を増やすためにも、部会ごとに開催日を決めるという案もあるかもしれないが、やはり教研開催日(一日も半日も)は統一した方がよい。

〔中央Ⅱ(清水中)地区〕

- ・授業日が部会によって変更が許可されているということを知りました。可能であれば授業日だけ別の日にさせてもらえるとありがたいです。
- ・予定通りできて良かった。

### 2. 時間構成について

〔西部(下川口・三崎)地区〕

- ・問題なかった。
- ・時間いっぱいどの部会も研修できた。

〔半島(足摺岬・中浜)地区〕〔東部(幡陽・下ノ加江)地区〕

- ・良かった。

〔中央Ⅰ(清水小)地区〕

- ・体育部会は市民体育館での公開授業の後、同じ場所で研究協議を行った。授業後に十分な時間があつたが、例えば水曜日以外の平日で6時間目に公開授業し、その後研究協議等でも良かった。
- ・算数部会のように、公開授業→研究協議→講師招聘研をする場合は、半日でもよい。

〔中央Ⅱ(清水中)地区〕

- ・午後日程なので時間構成は動かしようがないと思う。
- ・予定通りでき、深めることができて良かったと思う。

### 3. その他

〔西部(下川口・三崎)地区〕

- ・中学校の先生が小学校で授業をする部会が何部会かあつた。小中連携という意味でもいい方向性ではないかと思う。

〔半島(足摺岬・中浜)地区〕

- ・昨年度から算数部会は中学校と小学校が一緒になって研修に取り組んでいるが、中学校・小学校の両方の授業が見れて勉強になった。

〔東部(幡陽・下ノ加江)地区〕

- ・理科部会の授業では、子どもたちが意欲的に取り組んでいて良かった。
- ・情報教育部会では、小学校6年生の算数科の授業を中学校の教師がして小中連携がとれていて良かった。
- ・各部会とも予定通りすることができて良かった。

〔中央Ⅰ(清水小)地区〕

- ・体育部会の公開授業は市民体育館で行ったが、このような校外で公開授業を行う際、会場や移動手段の手配等をどこがするのか(部会長、事務局、授業者)、明確にしておくべきではないか。部会任せでは、新しく土佐清水市にきた教師は分からないこともあるだろう。

〔中央Ⅱ(清水中)地区〕

- ・授業をされた先生方のおかげで、深まりました。ありがとうございました。

### ☆第1回学力向上検討委員会(10月23日・金)委員長:文野校長(下川口小)

全国学力学習状況調査、標準学力調査において、市全体の分析を行い、定着状況等の把握と各校の学力向上の取組についても確認した上で調査の結果をもとに協議を行った。各校ではすでに校内研で分析し、課題の確認と課題克服に向けて具体的な取組が実践されていると思いますが、検討委員会で下記のような意見が出されましたので、校内研修等で生かしていただければ幸いです。

〔傾向〕

★国語:話すこと・聞くこと、書くことの領域(まとめる、自分の考えを書く、文法・漢字など基礎的なこと)

★算数・数学:図形や量と測定の領域

★理科:小・A区分・エネルギー、中・第1分野化学的、第2分野生物的領域

- ・言語活動の充実(個人思考の充実)
- ・授業スタンダードの確認と徹底
- ・家庭学習の充実(課題の工夫、基礎基本の定着)
- ・分析(問題の趣旨や傾向、誤答など多様な視点で)結果等をもとにした授業改善
- ・授業研後の課題を踏まえた授業改善
- ・各校の改善策(課題克服の取組)の振り返り(検証)の実施(校内研で)

＝各種提出物締切＝

○部会決算報告締切

期日:12月18日(金)

○事業実績報告書

期日:1月29日(金)

○総括教研部会報告書

期日:1月29日(金)

○研究集録原稿

期日:1月29日(金)

何かとご多忙と存じますが、ご協力よろしく申し上げます。